様式第１号

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 28 年度
１次評価日（主幹等）	29 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	29 年 3 月 31 日

1 事業名	蚕糸業対策事業	コード	21304

2 担当部課	部等	産業振興部	課等	ブランド推進室	作成者	小林　隆

3 事業概要				
目的体系	基本目標	魅力と活力にあふれる、にぎわいのあるまち		
	政　策	産業の振興	施　策	商業の振興
	予算科目	蚕糸業対策事業費	業務委託	なし（直営）
	実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
	根拠法令	なし		

●事業の内容（DO）

4 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		シルク岡谷の歴史を風化させることなく、広く文化及び技術を継承していくために、蚕糸業に係る支援策を展開する。
目的	対象者	市民及びシルク岡谷ふるさと産業研究会会員（岡谷絹工房）
	意　図	伝統産業の継承及び後継者の育成、シルクのまちづくり推進

5 事業の実施内容

＊28年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容

岡谷絹を使用した機織りの技術、染色技術の後継者育成を行う「シルク岡谷ふるさと産業研究会」を支援するとともに、「２０１６シルクフェア in おかや」を主催する「シルクフェア実行委員会」を支援した。

負担金：シルクフェア実行委員会負担金　180,000円
補助金：シルク岡谷ふるさと産業研究会補助金　250,000円

前年度の課題への対応	１年間通じてシルク岡谷ふるさと産業研究会の組織体制の見直しの議論がされ、年度末に見直しが行われた。この見直し作業に対する支援を行った。これにより、より積極的な工房運営が期待できる。

6 指標の達成状況

＊活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度

区　分	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 活動指標（指標名）	支援事業数			単位 団体
実績値	2	2	2	
＊指標の説明	補助金及び負担金の交付団体数			
② 成果指標（指標名）				単位
目標値	1,750	1,700	1,828	1,828
実績値	1,750	1,828	1,086	
達成度	100.0%	107.5%	59.4%	
＊指標の説明	シルクフェアの来場者数			
＊目標値の設定方法の説明	過去3年間の実数値最大			

7 ア）コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

補助金負担金名	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 直接事業費	430,000	430,000	430,000	500,000
経常経費	430,000	430,000	430,000	500,000
臨時的経費	0	0	0	0
＊臨時的経費の説明				

補助金負担金名		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
② 人件費		4,320,000	2,400,000	2,400,000	2,400,000
正規職員の人数（人）		0.54	0.30	0.30	0.30
③ 合計コスト（①＋②）		4,750,000	2,830,000	2,830,000	2,900,000
前年度比			59.6%	100.0%	102.5%
財源内訳	一般財源	4,750,000	2,830,000	2,830,000	2,900,000
	特定財源				
＊特定財源の説明					
④ 活動一単位あたりコスト		2,375,000	1,415,000	1,415,000	
前年度比			59.6%	100.0%	
⑤ コストに関する補足説明					

イ）補助金負担金の状況

［単位：件、円、%］

補助金負担金名		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
シルクフェア実行委員会負担金	件数	1	1	1	1
	金額	180,000	180,000	180,000	200,000
シルク岡谷ふるさと産業研究会補助金	件数	1	1	1	1
	金額	250,000	250,000	250,000	200,000
日本絹文化フォーラム負担金	件数				1
	金額				100,000
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア）の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	430,000	430,000	430,000	500,000
	割合	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

＊行が足りない場合は追加してください

●事業の評価（CHECK）

8 妥当性評価

＊妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。　妥当性　標準

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。		0
② 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。		0

9 有効性評価

＊有効性＝成果指標（項目7／住民の満足度）は向上しているか。　有効性　低い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。		0
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。		0
④ この事業の利用者が増加した。　成果指標の実績値　前年度比　59.4%		0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。　成果指標の目標値　達成度　59.4%		0

●改善の内容（ACTION）

10 具体的な課題と改善

課題	（少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること） ①シルクフェア来場者に多くの会場を回遊してもらうための仕組みづくり。 ②岡谷絹工房会員の制作体制の強化及び販路拡大。
改善方法	（上記の課題をふまえて29年度以降に実施する、具体的な改善の内容） ①実行委員会において検討を重ねる。 ②岡谷絹工房会員と意見交換を行いながら、講師等を招き研鑽を深めるとともに、販売等を通じてニーズの把握に努める。
改善開始時期	平成29年4月

●次年度の計画（PLAN）

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による29年度の優先度 *H27年度施策評価表より転記すること	B